

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	聖隷こども発達支援センター和合（聖隷こども発達支援センターかるみあ和合）		
○保護者評価実施期間	2024年9月10日 ～ 2024年9月29日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	56	(回答者数) 50
○従業者評価実施期間	2024年9月10日 ～ 2024年9月25日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数) 21
○事業者向け自己評価表作成日	2024年12月20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	災害時の発生に備え定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われている。	毎月の訓練について、予定表（利用申し込む表）でお知らせしている。訓練の様子について、保護者との連絡ツール（コドモン）にて配信している。	防災・防犯・安全計画等、訓練の基となっている計画やマニュアル等についても知っていただくための取り組みを通して、より安心して預けていただけるよう努める。又、職員の安全に関するアンテナを高め、物の配置等環境整備に活かす。
2	定期的に面談や子育てに関する助言等の支援を行っている。	定期的にクラス担任と本人の様子や支援計画の進捗について確認し合い、適切な関わり方、声のかけ方、促し方なども共有している。	保護者の負担にならない日程調整ができるよう、事前準備等、計画的に行う。 担任と保護者間だけでなく、同じ悩みを持つ保護者同士が話せる場を作る。
3	支援計画の立案、評価の際は様々な職員が参加し多角的な視点で行っている。また、園や医療機関その他県警機関との連携はクラス担任や専門職なども積極的に関りながら密に行っている	多職種でこどもと関わり、支援計画の評価も意見をもらい多角的に子どもの状態を捉えるようにしている。機関連携は評価時期に合わせて行っている。特に園との情報共有は、必要時保護者も交えながら園との方向性を確認し合うことができる。	保育所等訪問支援を利用しているお子さまについては、担当者同士の連携を密に行う。リハ職員については、医療機関のリハビリとの連携も更に充実させていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	こども園や地域等、他の子どもと活動する機会が少ない	今年度、こども園との交流を進めてきている。特に1, 2歳児の子どもたちとはかすみあの園庭を開放し、近くでの交流ができています。3～5歳児さん達との交流はまだ限定的。人数も多いためリスク管理上慎重になっている面もある。（様々な遊び場所やタイミング、グループ構成などをお試ししながら進めている）	こども園・はなえみ・高齢者・障害者支援施設など、和合せいれいの里内での様々な人と交流する機会を増やす。
2	定期的に通信やHP、SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や義務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信できていない。	毎日の活動内容や行事のお便り、給食の献立、お便りなど、保護者との連絡ツール（コドモン）で配信しているが、発信する情報や手段が限定的である。	保護者が知りたいと思う情報を届けることができるよう、発信する内容と発信方法を工夫する。
3	ペアプロ・きょうだい支援ができていない。	ペアプロやきょうだい支援について研修参加を通して職員で学びを深めるにとどまった。	年間計画に基づきペアプロやきょうだい支援について実施するとともに、家族まるごと支援の姿勢が職員に浸透するよう、学びを継続する。